

小木の子 われら

校 区 内
全 戸 回 覧

令和3年10月20日発行

オンラインとの付き合い方

校 長 齋 藤 光 夫

令和元年度の学校だより第9号巻頭言に、「ゲーム障害」について触れました。アルコールやギャンブルと同じように「依存症」として国際疾病に分類されたという話題でした。

近年、ネットワーク環境が急速に発達し、SNSやオンラインでいつでも、どこでも他者とのかかわることができるようになりました。

一方で、朝が苦手、布団の中でもゲームをしている、使用できないと不機嫌になる、嘘をつくなど、自分をコントロールできない「ゲーム障害」の心配は増すばかりです。

最近、年齢制限のあるゲームにもかかわらず、あるオンラインゲームが市内の子どもたちの間で流行していると聞きます。友達とのコミュニケーションができるよさはあるけれど、課金や保護者の方が現状を把握できていない問題も見られるようです。

今月の全校朝会では、次の話をしました。

「乱暴な言葉を使う」「ゲームができる時間の約束を守れない」（中略）そうならないためには、子どもの力だけでは無理です。お家の人と約束を決め、見守ってもらいながら、一人一人が気を付けて毎日を過ごしましょう。ゲームのことでお家の人にしかってもらえたのに「うるせえ」などと言っている人はいませんよね。注意してくれるお家の人には感謝しなければならないのです。

子どもに任せている、は自立や主体性の視点ではよい考えのように聞こえますが、見通しをもって時間を使うタイムマネジメント力や自分の行動を自発的に制御する力を使いこなすには、大人である私たちでも、かなりのエネルギーが必要です。

ゲームを侮ってはいけません。その魅力は、入り込むほどに味わうことができ、周りの人の理解が及ばない「のめり込み」を生み、「依存症」へと引き込む力を持っています。

子どもたちが健やかに成長するためには、数ヶ月後、数年後を見越し、時には保護者の皆様の温かくも厳しい指南が必要です。まもなく、小木小学校においても、タブレットを持ち帰らせてのオンライン使用に向けた準備を始めます。便利が広がり、新たな魅力が次々と生まれてくる時代を、上手に使いこなしていける力を育てていく必要があります。